

平成30年度

事業報告書

公益財団法人広島平和文化センター

目 次

事業報告書

1	設立目的及び概況	1
2	役員等の状況	2
3	理事会等の開催	5
4	定款の変更	7
5	職員の状況	8
6	事業の実施状況等	
	Ⅰ 事業の実施状況	
	(1) 公益目的事業1(平和推進事業)	
	ア 被爆体験継承普及事業	9
	イ 平和意識高揚事業	17
	ウ 国際平和推進事業	20
	エ 施設の管理運営	26
	(2) 公益目的事業2(国際交流・協力事業)	
	ア 国際交流・協力推進事業	32
	イ 国際化推進事業	35
	ウ ひろしま奨学金支給事業	39
	(3) 収益事業等	
	ア 広島平和記念資料館での収益事業	39
	イ 広島国際会議場での収益事業	39
	ウ 広島国際会議場の管理運営	40
	Ⅱ 無償使用貸借資産	40
	Ⅲ 事業報告の附属明細書	40

事業報告書

事業報告書

平成30年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告書
(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

広島の被爆体験を根底に据え、その継承を図るとともに、国内外の平和研究機関、関係団体等と連携し、全人類的な視野に立って、平和思想の普及と国際相互理解・協力の増進を図り、もって世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与することを目的とする。

(2) 概況

ア 設立年月日

昭和51年4月1日

イ 基本財産

設立当初の基本財産は1,000万円(全額広島市出資)であったが、その後13億2,319万8,624円を増額し、平成30年度末現在の基本財産は13億3,319万8,624円(うち広島市出資12億648万9,043円)である。

ウ 実施事業

実施事業は、次のとおりである。

- (ア) 平和の推進及び国際交流・協力に関する調査研究
- (イ) 原爆被爆の実相、平和の推進及び国際交流・協力に関する国内外の資料・情報等の収集、整理及び活用
- (ウ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する国際会議、講座、講演会、展示会等の開催
- (エ) 国内外の研究所、市民団体等との交流並びに平和の推進及び国際交流・協力活動に対する助成
- (オ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する出版物の刊行及び頒布並びに記念品の製作・販売

- (カ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する施設の管理の受託
- (キ) その他公益財団法人広島平和文化センターの目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の数

会 長	1 人
理 事 長	1 人
常務理事	2 人
理 事	20 人
監 事	2 人
評 議 員	16 人

(2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
平成30年 4月 1日	理 事	井 上 隆 志	就 任
〃	〃	西 迫 利 孝	就 任
〃	〃	三 角 幸 子	就 任
〃	監 事	久 光 章	就 任
平成30年 6月 26日	監 事	部 谷 俊 雄	辞 任
平成30年 6月 27日	監 事	尾 木 朗	就 任
平成30年 8月 31日	理 事	谷 口 裕 之	辞 任
平成30年 9月 1日	理 事	福 間 伸 二	就 任
平成30年 12月 31日	理 事	松 田 一 宏	辞 任
平成31年 1月 1日	理 事	岡 野 照	就 任
平成31年 3月 31日	理 事	吉 川 元	辞 任
〃	〃	松 浦 伸 也	辞 任

イ 平成31年3月31日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
会 長	松 井 一 實	平成23年 4月11日
理 事 長	小 溝 泰 義	平成25年 4月 1日
常務理事	城 一 博	平成27年 4月 1日
〃	岩 崎 静 二	平成28年 4月 1日
理 事	井 上 隆 志	平成30年 4月 1日
〃	植 野 実智成	平成26年 5月 1日
〃	岡 野 照	平成31年 1月 1日
〃	小 川 順 子	平成23年 4月 1日
〃	上久保 昭 二	平成26年 4月 1日
〃	川 野 徳 幸	平成29年 4月 1日
〃	神 部 泰	平成28年12月26日
〃	岸 本 伸 三	平成23年 4月 1日
〃	北 川 建 次	平成23年 4月 1日
〃	吉 川 元	平成25年 4月 1日
〃	ヒーター・コールスベリ	平成23年 4月 1日
〃	柴 田 幸 子	平成23年 4月 1日
〃	茶 幡 博 子	平成23年 4月 1日
〃	西 迫 利 孝	平成30年 4月 1日
〃	延 本 真栄子	平成23年 4月 1日
〃	福 間 伸 二	平成30年 9月 1日
〃	松 浦 伸 也	平成28年 2月 1日
〃	三 角 幸 子	平成30年 4月 1日
〃	渡 部 朋 子	平成23年 4月 1日
〃	渡 辺 宏	平成29年 4月 1日
監 事	尾 木 朗	平成30年 6月27日
〃	久 光 章	平成30年 4月 1日

(3) 評議員

ア 事業年度中の評議員の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
平成30年 4月 1日	評 議 員	三 上 貴 教	就 任
平成30年 6月 30日	〃	上 野 早 苗	辞 任
平成30年 7月 1日	〃	川 中 文 子	就 任
平成30年 12月 31日	〃	龍 永 直 記	辞 任
平成31年 1月 1日	〃	伊 藤 伸一郎	就 任
平成31年 3月 31日	〃	青 木 信 之	辞 任

イ 平成31年3月31日現在の評議員は次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
評 議 員	青 木 信 之	平成25年 4月 1日
〃	池 上 忍	平成23年 4月 1日
〃	伊 藤 伸一郎	平成31年 1月 1日
〃	越 智 光 夫	平成27年 4月 1日
〃	片 岡 勝 子	平成23年 4月 1日
〃	川 中 文 子	平成30年 7月 1日
〃	多 田 チャントーン	平成23年 4月 1日
〃	谷 村 武 士	平成23年 4月 1日
〃	月 村 佳 子	平成26年 5月 1日
〃	坪 井 直	平成23年 4月 1日
〃	徳 田 洋 子	平成26年 6月 10日
〃	丹 羽 太 貫	平成27年 7月 1日
〃	古 谷 章 子	平成23年 4月 1日
〃	松 村 誠	平成25年 5月 19日
〃	三 上 貴 教	平成30年 4月 1日
〃	森 瀧 春 子	平成23年 4月 1日

3 理事会等の開催

(1) 理事会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
平成30年 5月29日	第1回	1 職員の職務に係る倫理の保持に関する状況及び職員の職務に係る倫理の保持に関して講じた施策に関する報告について (報告第1号) 2 平成29年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告及び決算について (第1号議案)	終了 承認
平成30年 10月15日	第2回	1 公益財団法人広島平和文化センター平成30年度事業実施状況報告(4月～8月分)について (報告第2号) 2 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について (第2号議案) 3 平成31年度予算計上を検討中の主な事業について	終了 原案可決 終了
平成31年 3月19日	第3回	1 平成31年度公益財団法人広島平和文化センター事業計画及び収支予算について (第3号議案) 2 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について (第4号議案)	原案可決 原案可決

(2) 評議員会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
平成30年 4月1日	第1回	1 理事の選任について (第1号議案) 2 理事の選任について (第2号議案) 3 理事の選任について (第3号議案) 4 監事の選任について (第4号議案)	選 任 選 任 選 任 選 任
平成30年 6月20日	第2回	1 平成29年度公益財団法人 広島平和文化センター事業報 告について (報告第1号) 2 平成29年度公益財団法人 広島平和文化センター決算報 告について (第5号議案) 3 評議員の選任について (第6号議案)	終 了 承 認 選 任
平成30年 6月20日	第3回	1 監事の選任について (第7号議案)	選 任
平成30年 8月31日	第4回	1 理事の選任について (第8号議案)	選 任
平成30年 12月31日	第5回	1 評議員の選任について (第9号議案) 2 理事の選任について (第10号議案)	選 任 選 任

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
平成31年 3月19日	第6回	1 平成31年度公益財団法人 広島平和文化センター事業計 画及び収支予算について (第11号議案) 2 評議員の選任について (第12号議案) 3 理事の選任について (第13号議案) 4 理事の選任について (第14号議案)	承認 選 任 選 任 選 任

4 定款の変更

事業年度中の定款の変更はない。

5 職員の状況

平成31年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。

(単位：人)

区分	局長級	部長級	課長級	課長補佐級	係長級	主事	非常勤	計
総務課		1		1	2	4	15	23
施設課				1	1	1		3
平和連帯推進課		(1)	(2)	(4)	(2)	(6)		(15)
国際交流・協力課		1	1	2	1	5	2	11
学芸課	1		1	1	1	8	7	19
啓発課			1	1	1	6	2	11
国際会議場	1			1	1	3	4	10
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館		1		2		6	6	15
計	2	(1) 3	(2) 3	(4) 10	(2) 8	(6) 36		(15) 100

(注) 1 局長級に平和記念資料館長及び国際会議場館長を、部長級に総務部参事及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館長を、課長補佐級に主幹、専門員、国際会議場副館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館副館長を、係長級に主査及び国際会議場館長代理を、主事に学芸員及び技師をそれぞれ含む。

2 ()は、広島市との併任職員で外数である。

6 事業の実施状況等

I 事業の実施状況

(1) 公益目的事業1 (平和推進事業)

ア 被爆体験継承普及事業

(7) 修学旅行生への被爆体験講話等 (決算額：634万2千円)

- a 被爆の実相を次の世代に正しく伝え、平和意識の高揚を図るため、修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者などを対象に、学校等からの依頼を受けて、被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオ等の上映を行った。

・被爆体験講話

区 分	件 数	人 数
小 学 校	869 (764)	65,484 (58,763)
中 学 校	362 (308)	40,665 (33,973)
高等学校	170 (151)	26,828 (24,691)
そ の 他	657 (502)	21,123 (15,339)
計	2,058 (1,725)	154,100 (132,766)

※()内は財団委嘱の講師による被爆体験証言で内数である。

- b ヒロシマの心を伝えるとともに、被爆体験継承の推進を図るため、8月6日を含む夏休み期間に、平和記念公園を訪れる人々へ、事前予約不要かつ無料で被爆体験講話を聴く機会を提供した。

- ・開催日：平成30年8月6日(月)、11日(土)～15日(水)
- ・場 所：広島平和記念資料館、広島国際会議場
- ・参加者：2,406人

(イ) ヒロシマ・ピース・ボランティア事業 (決算額：342万1千円)

被爆体験継承の推進を図るため、ボランティアにより、広島平和記念資料館の展示や平和記念公園内の慰霊碑等の解説を行った。

- ・ボランティア登録者数 210人 (平成31年3月31日現在)

・活動実績

- ① 館内移動展示解説 1,653 団体 (5,491 人)
- ② 公園内移動解説 1,431 団体 (22,678 人)

(ウ) 被爆者証言ビデオの制作 (決算額：211 万 7 千円)

広島県内在住の被爆者の証言映像を記録し、保存するとともに、被爆の実相を国内外の次の世代に継承するため、複製したDVD等の貸出しやインターネット上での公開を行った。

[オリジナル版] (1本に1人約20～30分間収録)

- ・DVD 10本制作 (累計制作数 1,115本)

[ダイジェスト版] (オリジナル版を編集し、1本に3～4人分を約30分～40分間収録)

- ・DVD 3本制作

(エ) 被爆体験証言者交流の集いの運営 (決算額：3 万 7 千円)

被爆体験継承活動を行っている団体の活動に資するため、団体相互の情報交換等を行った。

区 分	内 容
平成 30 年 9 月 13 日 (木) 広島国際会議場 3 階研修室 2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度活動報告 ・平成 30 年度活動計画(案)説明 ・広島平和記念資料館事業の概要及び入館者の概況説明 ・被爆体験証言者の活動状況調査の結果報告及び意見交換

(オ) 平和文化センターインターンシップ事業 (決算額：5 千円)

大学生などを実習生として受け入れ、広島平和記念資料館等での就業体験を通して、被爆地ヒロシマについての理解を深める機会を提供した。

- ・受入人数：13 人 (大学生 5 人、中学生 8 人)
- ・受入期間：2 日～7 日／人 (大学生、中学生)

(カ) ヒロシマ・ピースフォーラムの開催（決算額：48万9千円）

市民に、平和の原点としてのヒロシマを見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいかを探求する機会を提供するため、広島市立大学と連携し、連続講座を開催した。

日程等	内 容 ・ 講 師
<p>[第1回] 10月27日(土) 広島平和記念資料館 会議室1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒロシマを学ぶ意義」 広島市立大学広島平和研究所准教授 竹本 真希子 ・被爆体験証言 (公財)広島平和文化センター被爆体験証言者 山本 玲子 ・「核兵器のない平和な世界の実現に向けた市民社会の役割」 (公財)広島平和文化センター理事長 小溝 泰義 ・意見交換
<p>[第2回] 11月17日(土) 広島市現代美術館ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク:広島市現代美術館 企画展「丸木位里・俊《原爆の図》をよむ」、頼山陽文徳殿 など 広島市現代美術館学芸員 ほか
<p>[第3回] 12月1日(土) 広島平和記念資料館 会議室1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「海外から見たヒロシマ・世界のヒバクシャ」 広島市立大学広島平和研究所教授 ロバート・ジェイコブズ ・「平和な社会を構築するための国際協力～南スーダン、イラクの事例～」 ユニタール広島事務所 シャムスル・ハディ・シャムス ・グループ討議
<p>[第4回] 12月15日(土) 広島平和記念資料館 会議室1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「原爆投下をめぐる日米の報道と意識の違い」 広島市立大学国際学部教授 井上 泰浩 ・「広島で平和を学ぶとはどういうことか？」 広島市立大学国際学部准教授 卜部 匡司 ・「広島・長崎原爆の開発と原爆放射線評価の歴史」 広島大学大学院工学研究院客員教授 静間 清
<p>[第5回] 1月19日(土) 広島平和記念資料館 会議室1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション:「若者が考えるこれからのヒロシマ」 ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダー 林田 光弘 ほか ・グループ討議
<p>[第6回] 1月26日(土) 広島平和記念資料館 会議室1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「被爆体験と世界の平和」 広島市立大学広島平和研究所副所長 水本 和実 ・グループ討議のまとめ発表・総括

※受講者：77人

(キ) 国内原爆写真展用資料の普及・活用（決算額：73万円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展を開催する国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスター・パネルを貸し出した。

貸出資料	点数
原爆写真ポスター	93
原爆写真パネル	47
計	140

(ク) 中・高校生ピースクラブの開催（決算額：148万8千円）

被爆の実相を学び、平和に対する見識を高めるとともに、自ら平和を目指して取り組む力を養い、平和を推進していく人材の育成を図るため、中・高校生に対して、被爆の実相等を学ぶ講座やワークショップなどの学習の場を提供した。

- ・開催期間：平成30年5月～平成31年3月（全10回）
- ・活動場所：広島平和記念資料館ほか
- ・内 容：① 広島平和記念資料館の見学、平和記念公園内の碑めぐり
② 原爆被害の概要説明
③ 岡山県、香川県、徳島県での平和学習（2泊3日）
④ 中・高校生ピースクラブOB・OG交流会の実施
- ・参加者：中学生、高校生（40人）
- ・ボランティア：18歳以上（6人）

(ケ) 平和学習講座（決算額：27万5千円）

被爆の実相や核兵器廃絶への取組などについての理解を深めるとともに、自ら平和活動に取り組む意識を醸成するため、講師を小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施した。

実施先	回数
小・中・高等学校	83
その他	10
計	93

- ・登録講師：10人（平成31年3月31日現在）

(コ) 平和記念資料館学習ワークブック等の作成（決算額：273万8千円）

修学旅行生等が、広島平和記念資料館の見学を通して、より効果的に被爆の実相を学び、平和を目指す自主的な取組につなげることができるよう、また、広島市への修学旅行誘致及び資料館入館者増加策の一助として、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」、「広島平和記念資料館学習ハンドブック」及び「平和記念公園めぐり」を作成し、配付した。

・作成部数	ワークブック	小学生用	60,000部
	ワークブック	中・高校生用	20,000部
	ワークブック	小学生指導者用	10,000部
	ワークブック	中・高校生指導者用	10,000部
	ハンドブック	小学生用	310,000部

(カ) 国内原爆展の開催（決算額：634万5千円）

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国内世論を醸成するため、原爆展を開催した。

〔岡山県笠岡市〕

- ・期間：平成30年7月27日(金)～8月2日(木)
- ・会場：笠岡市民会館
- ・内容：写真パネル・被爆資料・原爆の絵の展示、原爆記録映像上映、被爆体験証言等
- ・入場者：658人

〔岡山県総社市〕

- ・期間：平成30年8月5日(日)～15日(水)
- ・会場：総社吉備路文化館
- ・内容：写真パネル・被爆資料・原爆の絵の展示、原爆記録映像上映、被爆体験証言等
- ・入場者：276人

〔兵庫県芦屋市〕

- ・期間：平成30年8月19日(日)～26日(日)
- ・会場：芦屋市民センター
- ・内容：写真パネル・被爆資料・原爆の絵の展示、原爆記録映像上映、被爆体験証言等
- ・入場者：1,350人

(シ) 原爆展・平和学習用資料の普及・活用（決算額：67万4千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆展・平和学習用資料を貸し出した。

貸出資料	点数
DVD等映像資料	615
市民が描いた原爆の絵（複製）、ポスター、絵本セット等	474
計	1,089

(ス) 英語で伝えようヒロシマセミナー（決算額：5万5千円）

被爆の実相を正しく英語で伝えるため、原爆被害の概要及び英語での表現方法について学ぶ場を提供した。

区分	実施回数	延参加人数
ベーシック編	2	309
アドバンス編	2	266

(セ) 旧日本銀行広島支店での平和記念資料館収蔵品の展示（決算額：17万8千円）

広島平和記念資料館以外の場所で被爆の実相に触れる機会を提供することにより、より多くの人に被爆者の体験や平和への思いを共有してもらうため、旧日本銀行広島支店で、被爆資料や「市民が描いた原爆の絵」、平和記念資料館収蔵品（米国議会図書館等所蔵写真など）の展示を行った。

・時期：平成27年7月～平成31年1月27日

(ソ) 被爆体験伝承者による伝承講話の定時開催（決算額：461万3千円）

広島平和記念資料館において来館者等を対象に、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者による講話を定時開催した。

区 分	件 数	人 数
日本語での講話	750	12,200
英語での講話	381	7,463
計	1,131	19,663

また、学校等からの依頼を受けて、市内の会場に無料で被爆体験伝承者を派遣し、伝承講話を行った。

区 分	件 数	人 数
日本語での講話	140	13,446
英語での講話	73	1,039
計	213	14,485

(g) 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化（決算額：1,493万4千円）

再整備後の本館に展示予定の「黒い雨のあとが残った白壁」及び「ガラス片が突き刺さったままの壁」の修復、資料貸出のための「布製の靴」及び「女学生の夏服」のレプリカ作製、写真資料の長期保存のための35mmフィルムのバライタ紙へのプリントなど必要な保存措置を講じるとともに、収蔵庫や展示室の環境調査を行い、改善を図った。

また、被爆者証言ビデオのテキストデータ化・多言語化を行った。

(f) 被爆資料の収集等の強化（決算額：626万6千円）

a 被爆資料の収集の強化

被爆者やその遺族を訪問して、被爆状況の調査及び聴き取りを行い、資料の寄贈を呼び掛けるとともに、展示内容や出版物の充実を図るため、広島平和記念資料館の沿革に係る資料や情報の調査・収集を行った。

なお、予定していた海外の博物館等での資料の調査・収集は、次年度に実施することとした。

b 海外博物館とのネットワークの強化

ヒロシマ・ナガサキ原爆展開催に合わせて、開催地近辺の平和をテーマとした博物館等を訪問し、今後の連携の可能性について、協議を行った。

- ・訪問先：ベルン歴史博物館（スイス・ベルン市）、ゲルニカ平和博物館（スペイン・ゲルニカ＝ルモ市）等

(ツ) 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業（決算額：175万8千円）

来館者等に被爆の実相などを正確かつ効果的に伝えるため、広島平和記念資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフを対象に、体系的な研修を一元的かつ継続的に実施した。

- ・対象：被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者
- ・内容：総合研修（5回）、英語研修（140回）、接遇等研修（9回）、パワーポイント研修（2回）
- ・参加者：延べ1,800人

(テ) 広島平和記念資料館の企画展の実施（決算額：78万円）

本館リニューアルオープンに合わせて開催を予定している平成31年度第1回企画展の準備を行った。

(ト) 平和記念資料館再整備事業（決算額：3,909万2千円）

本館の展示については、展示検討会議での議論を踏まえ、展示資料の選定、展示説明文の原稿執筆、翻訳、監修等を行い、校正を重ね、4月25日にリニューアルオープンする運びとなった。

また、リニューアルオープンに備え、音声ガイドのコンテンツ制作や資料館ガイドブックの作成を行った。

なお、本館閉館中の被爆資料の展示充実を図るため、特別展「広島赤十字病院」を開催した。

- ・時期：平成30年7月20日（金）～平成31年3月27日（水）
- ・会場：広島平和記念資料館会議室（2）

(ナ) 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク（決算額：11万9千円）
大阪府大阪市で開催された第25回日本平和博物館会議に参加し、協議と情報交換を行った。

- ・ 期 間：平成30年11月8日(木)～11月9日(金)
- ・ 会 場：大阪国際平和センター

(ニ) 展示・収蔵資料等の調査研究（決算額：174万2千円）

常設展示の一部見直しや企画展開催の基礎的データの蓄積を図るため、広島平和記念資料館資料調査研究会の会員が、被爆資料等の調査・分析や学術的研究を行った。

- ・ 「広島平和記念資料館の展示環境」、「相原秀二資料のデジタル化について」など9テーマ（特別会員2テーマ含む。）

イ 平和意識高揚事業

(ア) こども平和キャンプの開催（決算額：21万3千円）

平和意識の高揚を図るため、小学校4年生から中学校3年生までを対象に被爆の実相や平和の大切さについて学ぶ場を提供した。

- ・ 期 間：平成30年6月2日(土)～6月3日(日)
- ・ 会 場：平和記念公園周辺、広島市似島臨海少年自然の家など
- ・ 内 容：① 被爆体験伝承講話
② 被爆電車乗車
③ 似島での遺構めぐり
- ・ 参加者：22人

(イ) ひろしま子ども平和の集い（決算額：81万9千円）

平和記念式典参列等のために広島を訪れる子どもたちと広島在住の子どもたちに、平和のメッセージを発信してもらうことにより、若い世代の平和意識の高揚と主体的な取組の促進を図った。

- ・ 時 期：平成30年8月6日(月)
- ・ 場 所：広島国際会議場 フェニックスホール
- ・ 内 容：平和への思いを言葉や歌など様々な形で発表
- ・ 参加者：11団体171人（市内9団体155人、市外2団体16人）

(ウ) こどもたちの平和文化活動支援事業（決算額：123万2千円）

小・中学生による多様な平和文化活動を奨励することにより、平和文化活動を活性化させ、子どもたちの平和意識の高揚を図るため、平和文化活動（絵画、習字、作文、俳句、標語、工作など）を行った学校からの申請を受け、参加者全員に記念品を贈った。

- ・参加者数：4,687人

(エ) 機関紙の発行等（決算額：362万5千円）

本財団が行う平和や国際交流・協力への取組を紹介する和文機関紙「平和文化」、英文機関紙 PEACE CULTURE を発行するとともに、本財団の事業報告「平和と交流 2018年版（平成29年度事業）」を作成しホームページに掲載した。また、本財団の活動に関する情報等をインターネットで適宜提供した。

区 分	発行回数・部数	配 布 先
和文機関紙 「平和文化」	3回 各6,000部	有識者、平和関係団体、国公立図書館、大学図書館、国際交流・協力団体、登録ボランティア、本財団理事・評議員・専門委員・会員、海外友好パートナー、海外姉妹・友好都市、広島市関係機関、広島市内小・中・高・大学等
英文機関紙 PEACE CULTURE	2回 各2,000部	海外の有識者、海外平和関係機関、海外友好パートナー、海外姉妹・友好都市、海外軍縮NGO、国内国際交流・協力団体、翻訳ボランティア、在日大使館等

日本平和学会春季研究大会に出席し、平和研究の最新の成果を学ぶとともに、学会員との交流を深めた。

- ・時 期：平成30年6月23日(土)～24日(日)
- ・場 所：東京大学（東京都内）

(オ) 平和宣言の発信（決算額：161万7千円）

核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成し、核兵器保有国の政策変更につなげるため、平和宣言の内容を国内外に発信した。

- ・内 容：① 平和宣言文パネル(和文、英文)の作成、掲示
- ② 平和宣言読み上げの動画の作成及び広島市ホームページでの発信（日本語・英語）
- ③ 平和宣言文の8か国語（スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガリー語、ポルトガル語）への翻訳及び広島市ホームページでの発信
- ④ 平和宣言文の印刷、配付及び送付
（和文：23,000部、英文：13,000部、点字：250部）

(カ) 広島平和記念資料館ホームページ及びデータベースの管理・運用（決算額：1,590万5千円）

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を世界に訴え、国際世論を醸成していくため、広島平和記念資料館のホームページ等で原爆・平和に関する情報を発信した。

- ① ホームページのアクセス件数（平成30年度）
広島平和記念資料館ホームページ 約73万件
キッズ平和ステーション 約32万件
広島平和記念資料館 バーチャル・ミュージアム 約47万件
- ② データベースの管理・運用
平和記念資料館が所蔵する被爆資料、写真、絵、動画等の原爆・平和に関する資料をデータベース化して管理し、一部を公開した。
・データベース公開件数（平成31年3月現在）：約9万5千件

(キ) 情報資料室の管理運営（決算額：221万7千円）

平和文化の普及、高揚と被爆体験の継承を図るための調査、研究の場として、原爆・平和に関する資料・情報の収集、保存を行い、閲覧に供した。

- ・利用者数：26,214人
- ・資料展の開催：① こうの史代「夕凧の街」複製原画展
平成30年9月12日(水)～平成31年3月19日(火)
- ② レストハウス竣工90周年記念
「広島市中島本町53番地 大正屋呉服店」
平成31年3月20日(水)～令和元年7月31日(水)（予定）

ウ 国際平和推進事業

(7) 国際平和シンポジウムの開催（決算額：6万円）

市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信を目的に、長崎市と朝日新聞社の共催により開催されたシンポジウムに出席した。（広島市と長崎市で交互に開催）

- ・時 期：平成30年7月28日（土）
- ・場 所：長崎原爆資料館ホール

(イ) 国連軍縮フェローズの受入れ（決算額：13万5千円）

国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシップ・プログラム」の支援として、各国外交官等の研修生（フェローズ）を広島で受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらう研修を行った。

- ・時 期：平成30年10月1日（月）～10月2日（火）
- ・場 所：平和記念公園、広島平和記念資料館等
- ・内 容：①被爆体験講話聴講
②広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、原爆ドーム、放射線影響研究所見学
③広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）参拝・献花等
- ・受入人数：27人

(ウ) 中国人民平和軍縮協会との交流（決算額：87万8千円）

中国の平和・軍縮分野のNGOである中国人民平和軍縮協会との交流を深めるため、代表団を受け入れ、被爆の実相とともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝えた。

- ・時 期：平成30年11月25日（日）～11月28日（水）
- ・訪問先：広島、東京
- ・受入人数：4人

(エ) ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言（決算額：22万4千円）

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けての国際世論を醸成するため、ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行った。

- ・実施回数：4か国10都市・11回

(オ) ピースナイターの開催（決算額：20万円）

市民等の平和意識の喚起を図るため、広島東洋カープの試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信する「ピースナイター」を生活協同組合ひろしま等と共催した。

- ・時 期：平成30年8月7日(火)
- ・場 所：MAZDA ZOOM-ZOOM スタジアム広島（広島市民球場）
- ・内 容：① 「継承」をテーマに設定し、被爆四世であるJ1サンフレッチェ広島の川辺駿選手による始球式を実施
- ② 原爆ドームと同じ地上25mの座席の観客が赤色のポスターを、その他の座席の観客が緑色のポスターを掲げることによる「ピースライン25」の掲出
- ③ 地元高校生等による「ピースパフォーマンス」
- ④ 大型ビジョンでの市長等のビデオメッセージ放映

(カ) 国外原爆写真展用資料の提供（決算額：47万円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、NGO、学校、個人等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター及び映像資料等の貸出・提供を行った。

[ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター]

区 分	点数	国・地域数
英語版	22	17
スペイン語版	3	3
日本語版	1	1
フランス語版	1	1
ロシア語版	1	1
計	28	23

[映像資料等]

貸出・提供資料	点 数
映像資料（DVD）	95
ポスター用データ等	55
計	150

(キ) ヒロシマ・ナガサキ原爆展の開催（決算額：1,055万6千円）

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けての国際世論を醸成するため、ハンガリー、フランス、ベルギーで「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」を開催した。

[ハンガリー]

- ・期 間：平成29年12月20日（水）～平成30年8月31日（金）
- ・会 場：ブダペスト市 岩の病院・核の避難所博物館
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆者証言ビデオ、被爆体験記等
- ・入場者：約113,200人

[フランス]

- ・期 間：平成30年9月20日（木）～10月31日（水）
- ・会 場：カーン市 カーン記念館
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験証言、被爆者証言ビデオ、被爆体験記等
- ・入場者：約10,000人

[ベルギー]

- ・期 間：平成30年11月9日（金）～12月2日（日）
- ・会 場：イーペル市 イーペル博物館
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験証言、被爆者証言ビデオ、被爆体験記等
- ・入場者：約2,100人

(ク) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム（決算額：9万4千円）

被爆の実相や被爆者の核兵器廃絶への願いを若い世代に継承するため、国内外の大学及び大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを、「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。同講座に新たに認定した大学に教材を送付するとともに、広島で平和学習を実施した大学に被爆体験証言聴講の機会を提供するなど、講座の充実に向けた協力を行った。

- ・新規開設大学：マレーシア科学大学（マレーシア）、ラスパンティ教育大学（アルゼンチン）

(ケ) 国連見学ツアーガイド等のヒロシマ研修（決算額：337万2千円）

常設の原爆展を開設している3か所の国連施設（ニューヨーク国連本部、ジュネーブ欧州国連本部、国連ウィーン事務所）から、国連見学ツアーガイド及びガイドツアー担当職員を広島に招へいし、被爆の実相を理解するための研修を実施した。

- ・ 期 間：平成30年12月1日（土）～5日（水）
- ・ 場 所：広島平和記念資料館、平和記念公園等
- ・ 内 容：①被爆の実相等に関する講義の受講
②被爆体験講話の聴講
③広島平和記念資料館、原爆ドームの見学
④慰霊碑・被爆遺構めぐり
⑤ボランティアとの交流会 等
- ・ 招へい人数：6人

(ク) 平和首長会議の運営（決算額：812万6千円）

加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通じて、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。

- ・ 内 容：①未加盟都市への加盟要請
②加盟都市の活動情報の収集及びホームページやフェイスブックでの公表
③加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言等の送付
④月刊メールマガジンの発行
⑤平和首長会議情報システムの運用保守 等
- （平和首長会議加盟都市数：163か国・地域7, 735都市）
（平成31年3月1日現在）

(ク) 2020ビジョンキャンペーンの展開（決算額：3,159万6千円）

平和首長会議の加盟都市の市民、NGO等と連携して、2020年までの核兵器廃絶を目指す行動指針「2020ビジョン（核兵器廃絶のための緊急行動）」及びその具体的な取組を定めた「平和首長会議行動計画（2017年－2020年）」に基づき、同ビジョンキャンペーンの世界的な展開を図った。

- ・内 容 : ① 2020年NPT再検討会議第2回準備委員会・被爆樹木の植樹式への出席
 - ・時期：平成30年4月22日（日）～4月30日（月）
 - ・場所：スイス・ジュネーブ市、フランス・パリ市、スペイン・ゲルニカ・ルモ市
- ②国際人道法アジア・大洋州地域会合への出席
 - ・時期：平成30年9月25日（火）～9月27日（木）
 - ・場所：インドネシア・ジャカルタ市
- ③オバマ財団主催アジア太平洋地域リーダーズデザインワークショップへの出席
 - ・時期：平成31年1月4日（金）～1月8日（火）
 - ・場所：米国・ホノルル市
- ④2019カーネギー国際核政策会議への出席
 - ・時期：平成31年3月10日（日）～3月14日（木）
 - ・場所：米国・ワシントンDC
- ⑤サッカー・ピースマッチ（J1 サンフレッチェ広島 VSV・ファーレン長崎）ピースアクティビティの開催支援
 - ・時期：平成30年8月11日（土・祝）
 - ・場所：エディオンスタジアム広島
- ⑥第8回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催
 - ・時期：平成30年11月5日（月）～11月6日（火）
 - ・場所：高山市
 - ・出席者数：148人（91自治体）
- ⑦核兵器禁止条約の早期締結を求める署名活動の展開
 - ・署名数：約282万筆（平成31年3月1日現在累計）
- ⑧平和首長会議加盟都市等への被爆樹木の種・苗木の配付
 - ・平成30年度配付実績：（国内）17自治体
（海外）6か国・9自治体
- ⑨写真展「50の都市－50の軌跡」の開催
 - ・時期：平成30年11月18日（日）～11月30日（金）
 - ・場所：広島国際会議場1階エントランスロビー
- ⑩子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテストの実施
 - ・募集時期：平成30年10月1日（月）～12月28日（金）
 - ・応募総数：469点（14か国29都市）
 - ・受賞作品数：最優秀賞1点、優秀賞2点、入選5点

(シ) 平和首長会議の体制強化（決算額：363万1千円）

海外の各地域グループを管轄するリーダー都市が主催する会合等に出席するとともに、その近隣のリーダー都市を訪問し、意見交換等を行うことにより、連携を一層強化し、平和首長会議の体制強化を図った。

- ・内容：①第86回全米市長会議年次総会への出席等
 - ・時期：平成30年6月7日（木）～6月13日（水）
 - ・場所：米国・ボストン市、ケンブリッジ市、ワシントンDC
- ②米国内の平和首長会議加盟都市との連携強化
 - ・時期：平成31年3月5日（火）～3月10日（日）
 - ・場所：米国・サンフランシスコ市、オークランド市、ロサンゼルス市、サンタバーバラ市

(ス) 平和首長会議インターンシップ（決算額：255万7千円）

平和首長会議の海外加盟6都市から6名の若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議事務局の業務に従事してもらうことにより、国際的な業務の充実及び各加盟都市との連携強化を図った。各インターンには、被爆の実相についての理解を深めるとともにヒロシマの平和への思いを共有してもらい、帰国後にそれぞれの都市において世界恒久平和の実現に向けた活動を推進してもらっている。

国	都市名	人数	期間
ドイツ	ミュンヘン	1	H30. 6. 18～H30. 7. 13
カメルーン	フォンゴ・トンゴ	1	H30. 8. 21～H30. 9. 14
ブラジル	サントス	1	H30. 10. 22～H30. 11. 2
イラン	テヘラン	1	H30. 11. 12～H30. 11. 28
ロシア	ボルゴグラード	1	H30. 12. 3～H30. 12. 19
カナダ	モントリオール	1	H31. 1. 16～H31. 2. 13

(セ) 青少年「平和と交流」支援事業（決算額：421万2千円）

平和首長会議の国内外の加盟自治体の青少年を招へいし、広島市等が主催する3つの事業に参加してもらうとともに、平和首長会議の概要説明、被爆体験証言の聴講や広島平和記念資料館の見学、各事業の参加者と事務局を交

えた意見交換会など、平和首長会議の独自プログラムを実施した。

派遣元加盟自治体では参加者の報告を踏まえ、平和施策のより一層の充実を図っている。

事業名 (主催)	事業の対象者	平和首長会議加盟自治体からの参加者			期間
		国内	国外	自治体 (下線はリーダー都市)	
HIROSHIMA and PEACE (広島市立大学)	広島市立大学 他国の学生等 (学部生・院生)	3人 (学生 社会人)	6人 (学生 社会人)	三鷹市、台東区、高山市、ハムガ ¹ 市、バルセロナ市、 <u>ケララース</u> 市、 <u>マンチェスター</u> 市、 <u>サントス</u> 市、 <u>テヘラン</u> 市	7/31～8/10 (11日間)
ひろしま子ども 平和の集い (広島市等)	8/6に広島を訪れる子どもたちと広島の子どもたち	15人 (1市) 子ども 引率者	-	茅ヶ崎市	8/5～8/7 (3日間)
ヒロシマ平和セミナー (広島市立大学)	大学院生 公務員 メディア関係者	4人 (公務員)	-	札幌市、山形市、松本市、高山市	8/24～8/26 (3日間)

(7) NPT再検討会議等への高校生派遣事業 (決算額：405万7千円)

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた平和活動を担う次代のリーダーの育成を図るため、2020年NPT再検討会議第2回準備委員会に高校生を派遣し、核兵器を巡る国際情勢を学ぶとともに、ヒロシマのメッセージを発信してもらった。

- ・派遣時期：平成30年4月22日(日)～4月29日(日)
- ・派遣先：スイス・ジュネーブ市
- ・派遣人数：高校生8人

エ 施設の管理運営

(7) 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営 (決算額：2億8,784万8千円)

厚生労働省からの受託事業として追悼平和祈念館の管理運営を行った。

- ・入館者数

433,912人(1日平均：1,195人)

(平成14年8月の開館以降の入館者数：4,213,655人)

a 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

平成12年度から実施している原爆死没者の氏名・遺影の収集を引き続き実施するとともに、館内で公開した。

原爆死没者氏名・遺影の収集状況（平成31年3月31日現在）

（単位：人）

提供者数	原 爆 死 没 者 数		
	氏名・遺影	氏名のみ	計
(95) 13,149	(106) 20,285	(31) 2,735	(137) 23,020

※（ ）内は海外からの提供数で内数である。

b 被爆体験記の収集・整理・公開

平成9年度から実施している被爆体験記の収集・整理（データベース化）を引き続き実施するとともに、館内で公開した。

被爆体験記の収集・整理状況（平成31年3月31日現在）

（単位：人分、％）

区 分	収集件数	整理件数	進捗率
厚生省収集分被爆体験記(H7)	81,205	81,205	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記(H17)	11,778	11,778	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記(H27)	11,351	1,828	16.1
独自収集分被爆体験記	3,305	3,304	100.0
図書（被爆体験記集等）	(4,877冊)	39,645 (2,849冊)	(58.4)
計	—	137,760	—

- (注) 1 「厚生省収集分被爆体験記(H7)」：平成7年度に厚生省（当時）が実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。
 2 「厚生労働省収集分被爆体験記(H17)」：平成17年度に厚生労働省が実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。
 3 「厚生労働省収集分被爆体験記(H27)」：平成27年度に厚生労働省が実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。
 4 「独自収集分被爆体験記」：平成9年度以降収集した被爆体験記をいう。

c 企画展の開催

祈念館が所蔵する被爆体験記の中から、テーマに沿ったものを選ぶとともに、映像資料を制作して企画展を開催した。なお、映像資料については、DVDや字幕本を作成し、平和学習資料として貸出しを行うとともに、ホームページに掲載した。

① テーマ 「星は見ている―全滅した広島一中一年生父母の手記集」

- ・期 間：平成30年1月1日(月)～12月29日(土)
- ・展示内容：広島に投下された原子爆弾は多くの幼い命を奪った。

1945年8月6日早朝、広島街には、炎天下で作業する子どもたちの姿があった。入学したばかりの一年生は、爆撃からの延焼を防止するため、防火帯をつくるという建物疎開作業に従事しており、多数が犠牲となった。この作業に従事していて犠牲となった、広島県立広島第一中学校の生徒の遺族が、愛するわが子を失った思いを込めて綴った『星は見ている』。この追悼集を題材に、原爆が落とされる前の家族はどうだったのか、原爆がその家族に何をもたらしたのか、どのようにして、何を訴えて亡くなっていったのか、そのとき、家族はどうしたのか、突然に目の前から消え去ったわが子への思いを映像化し、展示した。

(被爆体験記26編、関連資料80点)

② テーマ 「流燈 広島市女原爆追憶の記 最も多くの犠牲を出した女学校の記録」

- ・期 間：平成31年1月1日(火)～12月29日(日) (予定)
- ・展示内容：戦局の悪化に伴い中学生以上の生徒は、年間を通して食糧生産や軍需工場に動員され、広島原爆では約7,200人が犠牲となった。中でも、建物疎開作業のため爆心地に近い屋外で作業をしていた生徒の被害は甚大で、1～2年生のほぼ全員が動員された広島市立第一高等女学校(現在の市立舟入高等学校)は666人の生徒が死亡、最も多い犠牲者数となった。1957年(昭和32年)8月に遺族による追悼集『流燈』が刊行され、遺族による追憶の記とともに、生徒らの遺稿も掲載されている。

企画展では、『流燈』に掲載された体験記を中心に遺影

や関連資料を展示し、戦争や原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えている。

(3面シアター映像約30分、手記28編、関連資料5点、原爆死没者の氏名・遺影353名)

d 被爆者証言ビデオの制作

原爆被爆の体験を後代へ継承するため、広島県外在住及び国外在住被爆者の証言映像を収録し、当時の資料写真や証言者の家族写真などを織り交ぜながら、一人20分程度に編集し証言ビデオを制作した。なお、制作した証言ビデオは、館内及びインターネット上で公開するとともに、平和学習用として貸出を行った。

- ・ 県外在住被爆者

収録者数：10人（北海道4人、岩手県1人、福島県1人、東京都4人）

- ・ 国外在住被爆者

収録者数：6人（米国5人、韓国1人）

e 被爆体験記の朗読事業

若い世代へ被爆体験を継承するため、修学旅行などで広島を訪れた児童生徒を対象に被爆体験記（原爆詩を含む。）の朗読会を開催した。また、来館者が自由に参加できる定期朗読会を毎月開催し、外国人来館者にも英語定期朗読会を行った。さらに、広島市内の学校、公民館等へ出向く出前朗読会などを開催したほか、国内原爆展会場でも朗読会を行った。

また、独自で被爆体験記朗読会を希望する団体等へは朗読セットの貸出しを行った。

- ・ 朗読会開催回数：219回
- ・ 朗読セット貸出件数：18件

f 広島平和学習セミナーの開催

平和学習を目的として多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催した。

- ・開催日：平成30年7月24日(火)
開催地：新宿(対象：東京都)
参加者：28人
- ・開催日：平成30年7月25日(水)
開催地：秋葉原(対象：東京都)
参加者：22人

g 被爆体験記執筆補助

高齢などにより被爆体験記の執筆が困難な被爆者を対象に、体験談の聞き取りや代筆を行い、被爆体験記の収集数の増加を図った。

- ・執筆補助事業対象者：広島県内在住の被爆者
- ・平成30年度実施者：8人(一般公募)

h 多言語化対応事業

海外から来館する多くの人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、被爆者証言ビデオの翻訳字幕の作成、被爆体験記の翻訳を行った。また、追悼平和祈念館リーフレットを、新たにアラビア語、オランダ語、ヒンディー語、ヘブライ語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語に翻訳し、来館者サービスの向上を図った。

- ・証言ビデオ

字幕付本数：1, 257本(36本) 言語数：22言語(15言語)

- ・被爆体験記

翻訳編数：1, 199本(88本) 言語数：24言語(4言語)

- ・リーフレット

翻訳言語数：16言語(7言語)

* ()内はH30年度新規追加本数で内数である。

i 被爆体験伝承者等派遣・語学研修

次世代へ被爆体験を伝承するため、被爆体験伝承者や被爆体験記朗読ボランティアを全国及び海外に無料で派遣した。

また、被爆体験伝承者と被爆体験記朗読ボランティアに英語実技研修を行った。

- ・ 伝承講話実施回数：273回（3回）
 - ・ 朗読会実施回数：39回（3回）
- *（ ）内は国外派遣の実施回数で内数である。

j インターネットによる情報発信

事業内容をホームページに掲載するとともに、保有する被爆体験記及び被爆者証言ビデオを掲載して被爆の実相を伝えた。

- ・ 平成30年度アクセス件数
 - 祈念館ホームページ：860,312件
 - 平和情報ネットワーク：5,780,021件

k 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

平成30年度は、情報システム機器更改を行った。

l 施設の管理等

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の維持管理を行った。

(イ) 広島平和記念資料館の管理運営

a 施設等の管理運営（決算額：2億7,954万3千円）

入館者数 (単位：人)

区 分	入館者数	内 訳	
		個 人	団 体
大 人	1,083,399	948,467	134,932
小 人	439,054	112,601	326,453
計	1,522,453	1,061,068	461,385

- ・ 新着資料展の開催：平成29年度寄贈資料の展示
平成31年3月29日(金)～令和2年3月(予定)

b 広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）の維持管理（決算額：33万円）

(2) 公益目的事業2 (国際交流・協力事業)

ア 国際交流・協力推進事業

(7) 国際交流・協力事業への助成 (決算額：59万6千円)

市民レベルの国際交流・協力の推進を図るため、広島市内で活動している国際交流・協力活動団体が、自主的に企画・実施する国外又は市内での国際交流・協力事業に対して助成を行った。

区 分	助成団体数
国際交流・協力活動育成補助金	0
国際交流・協力活動振興補助金	3
(国 外 事 業)	(2)
(市 内 事 業)	(1)

(イ) 国際交流ネットワークひろしまの運営 (決算額：155万3千円)

広島市内の国際交流・協力活動団体等で構成する国際交流ネットワークひろしまを運営し、加入団体が活動しやすい環境づくりに努めた。また、国際交流・協力課のホームページを活用し、国際交流ネットワークひろしま加入団体の活動情報等を発信した。

- ・ 内 容：加入団体への情報提供等、研修室・ボランティア活動コーナーの運営、ホームステイ等のあっせん
- ・ 加入団体数：147団体 (平成31年3月31日現在)
- ・ 平成30年度ホームページアクセス件数：78,704件

(ウ) 国際フェスタの開催 (決算額：319万8千円)

広島市内の国際交流・協力活動団体間の交流を推進するとともに、市民の関心を高めるため、「国際フェスタ2018」を開催し、文化体験コーナーや、セミナー、展示、バザー等を実施した。

- ・ 日 時：平成30年11月18日(日) 午前10時～午後4時
- ・ 会 場：広島国際会議場、平和大通り緑地帯、平和記念公園
- ・ 内 容：① セルジオ越後氏によるトークショー

「セルジオ越後さんが語る、ブラジル日系人のこと、サッカーのこと」

- ② 市民団体等活動紹介コーナー
- ③ ひろしま国際村～世界の屋台
- ④ 屋外ステージ等、全38事業を実施

- ・主催：(公財)広島平和文化センター（国際交流・協力課、国際会議場）
- ・共催：独立行政法人国際協力機構中国センター、公益財団法人ひろしま国際センター、広島市
- ・参加団体：70団体
- ・入場者：延べ約12,800人

(エ)「姉妹・友好都市の日」の開催及び「ヒロシマ・メッセンジャー」の運営（決算額：373万7千円）

広島市が海外の6つの姉妹・友好都市ごとに創設した「姉妹・友好都市の日」に市民参加型の記念イベントを開催し、市民交流の一層の拡大と国際意識の高揚を図った。

また、「姉妹・友好都市の日」記念イベントの企画・立案及び進行や、国際理解学習の講師として学校等に派遣する「ヒロシマ・メッセンジャー」を募集した。

a 姉妹・友好都市の日の開催

① 大邱の日

- ・開催日：平成30年5月3日(木・祝)～5月5日(土・祝)
- ・開催場所：フラワーフェスティバル会場
- ・参加人数：約6,800人
- ・内容：大邱広域市紹介コーナー、韓国文化体験コーナー、韓国家庭料理の販売コーナー等

② ハノーバーの日

- ・開催日：平成30年5月27日(日)
- ・開催場所：広島市留学生会館
- ・参加人数：約270人
- ・内容：ドイツ・ハノーバー紹介コーナー、上田流茶道の体験、ドイツ製法のソーセージとドイツパン・バウムクーヘンの試食、ドイツ音楽コンサート、ドイツ絵本の展示・読み聞かせ等

③ モントリオールの日（姉妹都市提携20周年記念）

- ・開催日：平成30年6月4日（月）～6日（水）
- ・開催場所：JMS アステールプラザ 大ホール（ステージイベント：4日）、市民ギャラリー（モントリオール市紹介展：4日～6日）
- ・参加人数：約1,060人
- ・内容：記念式典、モントリオール市長への特別名誉市民称号贈呈式、記念公演・パフォーマンス、お楽しみ抽選会、モントリオール市紹介展等

④ ボルゴグラードの日（姉妹都市提携45周年）

- ・開催日：平成30年9月9日（日）
- ・開催場所：広島市留学生会館
- ・参加人数：約120人
- ・内容：ボルゴグラード市の紹介、ロシア風お菓子と黒パンの試食、エリザベト音大生、広島の音楽家の出演によるロシア音楽コンサート等

⑤ 重慶の日

- ・開催日：平成30年10月20日（土）
- ・開催場所：広島市留学生会館
- ・参加人数：約200人
- ・内容：中国・重慶市の紹介、月餅及び麻花の試食、和紙ちぎり絵、中国茶の体験、太極拳の披露、中国琵琶の演奏、お楽しみ抽選会等

⑥ ホノルルの日

- ・開催日：平成30年11月3日（土・祝）
- ・開催場所：広島駅南口地下イベント広場
- ・参加人数：約580人
- ・内容：ホノルル市の紹介、フレーバーコーヒー・ジュースの試飲、リボンレイの展示・製作体験、ハワイアンバンドの演奏、フラステージ、日米協会「金子堅太郎賞」を受賞された葉佐井博巳さんの紹介コーナー等

b ヒロシマ・メッセンジャーの運営（募集及び面接）

- ・募集時期：平成30年10月1日(月)～10月31日(水)
- ・募集内容：姉妹・友好都市ごとに2人、計12人
- ・募集者面接会：平成30年11月30日(金)
- ・任期：平成31年1月～令和元年12月

イ 国際化推進事業

(7) 国際交流員による国際交流事業の実施（決算額：3万7千円）

a 国際交流員の派遣

地域レベルでの国際交流・国際理解を促進するため、学校等広島市関係機関が実施する国際交流・国際理解事業に、英国出身の国際交流員を計20回派遣した。

b 国際交流員の相談日の実施

国際交流員が市民からの質問や相談に応じる国際交流員の相談日を11月まで国際交流ラウンジにおいて月1回実施し、延べ28件の相談に応じた。12月からは「Have a Natter!」「世界を知ろう!」に変更し、自由な意見交換と海外の文化紹介を行った。12月以降の参加者は延べ55名であった。

(4) 情報誌の発行（決算額：9万7千円）

外国人市民のための生活・文化情報誌「HIRO CLUB NEWS」を作成・配布した。また、これらの情報をインターネットでも提供した。

a 発行回数・部数等

① 英語版

月2回発行、1日号約50ページ、15日号約5ページ・約100部/回

② 中国語、ポルトガル語、スペイン語版

月1回発行、約15ページ・約50部/回

〔掲載情報〕

広島市広報誌「ひろしま市民と市政」掲載記事の抜粋、広島平和文化センターからのお知らせ、国際交流員によるコラム（年4回）、映画情報、テレビ番組情報（バイリンガル放送）、コンサート・演劇情報、

美術館・博物館情報、スポーツ・イベント情報、国際交流ラウンジ情報、その他生活情報

b 配布先：県内国際交流団体、広島市関係機関、広島市内の日本語教室等

(ウ) 国際交流・協力団体との連携（決算額：30万4千円）

広島地域の国際交流・協力事業の連携・調整を図るため、公益財団法人ひろしま国際センター等関係機関との連絡会議に参加したほか、二国間団体の運営に関し助言を行うとともに、地域国際化協会の研修会等に参加した。

(I) 通訳ボランティアの研修・派遣事業（決算額：33万4千円）

日本語での会話が困難な外国人市民の生活を支援するため、ボランティアを登録し、通訳者として必要な研修を行うとともに、要請に応じて区役所や学校、国際的会合などに派遣した。

- ・派遣件数：41件
- ・派遣人数：延べ62人

[研修会]

開催日・会場	内容・講師
第1回 平成31年2月23日(土) 広島国際会議場 会議運営事務室	・「広島市の多文化共生の取組、現状等」 ・「通訳ボランティア派遣制度について」 ・「通訳ボランティアによる体験談」
第2回 平成31年3月2日(土) 広島国際会議場 会議運営事務室	・「日本に住む外国人の現況と通訳ボランティアの役割」 (一財)自治体国際化協会 地域国際化推進アドバイザー RASCコミュニティ通訳支援センター(Cots)代表 西村 明夫
第3回 平成31年3月9日(土) 広島国際会議場 会議運営事務室ほか	・「語学研修」(英語・中国語) 通訳者養成機関講師

(オ) 外国人市民の総合相談窓口事業（決算額：504万5千円）

日本語に不慣れな外国人市民のために、多言語で対応できる相談窓口を開設し、窓口や電話での生活支援相談、生活関連情報の提供・翻訳、行政機関等への同行及び電話による通訳などを行った。

- ・開設場所：国際会議場1階 国際交流ラウンジ
- ・開設日時：月曜日から金曜日（祝日・年末年始・8月6日を除く）

午前9時～午後4時

区 分	月	火	水	木	金
中国語相談員	○	○	○	○	○
スペイン語相談員	○		○		○
ポルトガル語相談員		○		○	○

※第1・第3金曜日、安芸区役所巡回相談（スペイン語・ポルトガル語を交互に実施）

- ・対応件数：747件（相談：290件、通訳：217件、翻訳：240件）

(カ) 外国人市民の日本語能力向上支援事業（決算額：24万6千円）

地域日本語教室のボランティア同士の連携を深め、スキルアップを図るための講座と、各教室が抱える課題の一つであるボランティア不足を解消するためのボランティア養成講座を開催した。

a 第1回日本語教室ボランティアスキルアップ講座

- ・開催会場：広島国際会議場3階 研修室
- ・開催日：平成31年1月26日（土）
- ・内 容：日本語教室の学習支援と災害における支援のあり方
- ・講 師：特定非営利活動法人安芸高田市国際交流協会
理事／事務局長 明木 一悦
- ・参加人数：21人

b 第2回日本語教室ボランティアスキルアップ講座

- ・開催会場：広島国際会議場3階 研修室
- ・開催日：平成31年1月29日（火）
- ・内 容：学習と指導が変わる日本語評価

- ・ 講 師：広島大学大学院教育学研究科 准教授 渡部 倫子
 - ・ 参加人数：33人
- c 日本語教室ボランティア養成講座（平成29年度受講生）
- ・ 開催会場：広島国際会議場3階 研修室
 - ・ 開催期間：平成30年8月18日（土）
 - ・ 内 容：ボランティア活動開始後のフォローアップ研修
 - ・ 講 師：広島YMCA専門学校 言語コミュニケーション科
専任講師 末田 朝子
 - ・ 参加人数：8人
- d 日本語教室ボランティア養成講座（平成30年度上期）
- ・ 開催会場：広島国際会議場3階 研修室
 - ・ 開催期間：平成30年8月18日（土）～9月1日（土）の毎週土曜日と平成31年2月9日（土）の全5回
 - ・ 内 容：日本語学習支援の基礎、日本語学習体験談、日本語教室の紹介・交流会、ボランティア活動開始後のフォローアップ研修
 - ・ 講 師：広島YMCA専門学校 言語コミュニケーション科
専任講師 末田 朝子、福永 尚子
日本語学習体験者、市内日本語教室の代表者
 - ・ 参加人数：延べ150人
- e 日本語教室ボランティア養成講座（平成30年度下期）
- ・ 開催会場：広島国際会議場3階 研修室
 - ・ 開催期間：平成31年2月12日（火）～2月26日（火）の毎週火曜日全4回（第5回は平成31年度に実施）
 - ・ 内 容：日本語学習支援の基礎、日本語学習体験談、日本語教室の紹介・交流会
 - ・ 講 師：広島YMCA専門学校 言語コミュニケーション科
専任講師 末田 朝子、福永 尚子
日本語学習体験者、市内日本語教室の代表者
 - ・ 参加人数：延べ186人

ウ ひろしま奨学金支給事業（決算額：1,099万9千円）

広島市内に居住し、市内の大学・大学院に在籍する私費留学生に対し、経済的な問題に影響されることなく安心して学業に専念できるよう、奨学金を支給した。

- ・支給人数：30人
- ・支給金額：30,000円／月×12か月

(3) 収益事業等

ア 広島平和記念資料館での収益事業（決算額：1億1,493万9千円）

(7) 出版事業

次のとおり出版した。

- ・「図録 広島平和記念資料館 ヒロシマを世界に」 増刷：10,000部
- ・英文原爆戦災誌 増刷：5,000部

(1) 販売事業

原爆・平和関係の図書、グッズ、DVD等を、広島平和記念資料館内のミュージアムショップで販売した。

(ウ) 常設展示等の解説機器（音声ガイド）の貸出事業

広島平和記念資料館の常設展示の詳しい解説が聴ける音声ガイドの貸出しを行った。

- ・解説言語：日英2言語
- ・貸出件数：68,372件

イ 広島国際会議場での収益事業（決算額：742万4千円）

臨時売店の運営、飲料水自動販売機の設置、コピー・ファクスサービス、レセプションの手配等を行った。

ウ 広島国際会議場の管理運営（決算額：3億9,379万3千円）

(7) ホール及び会議室の利用状況

区 分	貸出可能 区分数 (区分)	利 用 区分数 (区分)	利用率 (%)	利用件数 (件)
フェニックスホール	1,026	415	40.4	184
国際会議ホール（ヒマワリ）	1,077	415	38.5	231
大会議室（ダリア）	2,124	875	41.2	350
中会議室（コスモス）	2,154	831	38.6	327
小会議室（ラン）	2,154	867	40.3	386
会議運営事務室	1,077	749	69.5	1,019
計	9,612	4,152	43.2	2,497

（注）利用率とは、貸出可能区分数に対する利用区分数の割合である。

(イ) 国際交流ラウンジの利用状況

（単位：人）

区 分	利用者数	内 訳	
		日本人	外国人
国際交流ラウンジ	62,397	53,222	9,175

II 無償使用貸借資産

事業を実施するに当たって、広島市から無償使用貸借している資産は次のとおりである。

建物

（平成31年3月31日現在）

名 称	所在地	区分	現 在 高
広島平和記念資料館	中区中島町1番2号	建物	事務室等 698.60 m ²
広島国際会議場	中区中島町1番5号	建物	事務室等 358.66 m ²

III 事業報告の附属明細書

記載すべき事項はない。